

## 第 10 分科会「リハビリテーションの現場で求められるもの」

- ◇運営委員 亀井 真由美（ひまわりユニオン）  
            廣瀬 辰巳（石川勤医協）  
            臼井 弥生（長厚労）
- ◇助言者 眞鍋 克博（帝京科学大学医療科学部准教授）

皆さんの現場で、日々大切にしていることは何ですか？

リハビリテーションは医療・介護・福祉の各領域でニーズが高まっています。私たちの仕事は、患者さん、利用者さんによりよいアプローチをすること、そのための情報収集や自己研鑽、臨床研究が必要です。その直接的なアプローチ以外に、本人を取り巻く人々に対する情報提供や助言、具体的な方法伝達や指導によって理解を進め、適切な関わり方ができるような働きかけをおこなったり、他職種との情報交換、それらが継続していくための仕組み作りなど直接的には診療・介護報酬アップにつながらないけれども大切なことがたくさんあります。更に患者さん、利用者さんとしてだけではなく一人の住民として、その地域で住み続けるための地域への働きかけが必要なこともあるでしょう。そうした「連携」のため成されている取り組みが様々にあります。

さて、診療・介護報酬は改訂を重ねるごとに、実施日数の制限とともに成果が求められるようになっていきます。そうした中でリハビリテーションスタッフは、患者数や報酬アップの数値目標が追及されてきています。労働条件がきつくなってはいませんか？一人職場では悩みを相談することもできない実態があるようです。また、急激な人員変化に教育指導体制が追いつかないなど職場環境も変化しています。リハビリテーション分野における「労働環境」に関する問題はまだはっきりしていないのが現状です。

この分科会で、それぞれの職種の実践や日頃感じていることなどレポートを持ち寄り、全国の仲間と問題を共有し討論して、明日からの力にしていきたいと思います。皆様のご参加をお待ちしています。

なお、レポートは期限までに提出してくださるようお願いいたします。

以上